

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																																								
織田ファッション専門学校		昭和51年9月1日		鈴木 貴子		〒 164-0001 (住所) 東京都中野区中野5-32-8 (電話) 03-3228-2111																																								
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																																								
学校法人織田学園		昭和40年10月21日		鈴木 貴子		〒 164-0001 (住所) 東京都中野区中野5-32-8 (電話) 03-3228-2111																																								
分野		認定課程名		認定学科名		専門士認定年度		高度専門士認定年度		職業実践専門課程認定年度																																				
服飾・家政		服飾専門課程		ファッションデザイン科		平成20(2008)年度		-		令和3(2021)年度																																				
学科の目的		服飾に関する専門的学理と技術を教授するとともに、就職した現場で大切なビジネス感覚を持ち合わせ、さらにデザインだけでなく服の構造であるパターンや仕様が理解できるデザイナーを目指す。																																												
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)		ブランドを持つデザイナーからのレクチャーとオリジナルブランド企画で、トレンドと自分らしさを兼ね備えたファッションデザイナーを目指す。																																												
修業年限		昼夜		全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義		演習		実習		実験		実技																																
2年		昼		※単位数時間、単位いずれかに記入 2,000 単位数時間 単位		639 単位数時間 単位		0 単位数時間 単位		1,521 単位数時間 単位		0 単位数時間 単位		0 単位数時間 単位																																
生徒総定員		生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)																																								
80人		35人		0人		0%																																								
就職等の状況		<table border="1"> <tr><td>■卒業生数(C)</td><td>:</td><td>10</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職希望者数(D)</td><td>:</td><td>2</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職者数(E)</td><td>:</td><td>2</td><td>人</td></tr> <tr><td>■地元就職者数(F)</td><td>:</td><td>2</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職率(E/D)</td><td>:</td><td>100</td><td>%</td></tr> <tr><td>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)</td><td>:</td><td>100</td><td>%</td></tr> <tr><td>■卒業者に占める就職者の割合(E/C)</td><td>:</td><td>20</td><td>%</td></tr> <tr><td>■進学者数</td><td>:</td><td>7</td><td>人</td></tr> <tr><td>■その他</td><td>:</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>(令和4年度卒業生に関する令和4年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和4年度卒業生) アパレル業界</p>									■卒業生数(C)	:	10	人	■就職希望者数(D)	:	2	人	■就職者数(E)	:	2	人	■地元就職者数(F)	:	2	人	■就職率(E/D)	:	100	%	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	:	100	%	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	:	20	%	■進学者数	:	7	人	■その他	:		
■卒業生数(C)	:	10	人																																											
■就職希望者数(D)	:	2	人																																											
■就職者数(E)	:	2	人																																											
■地元就職者数(F)	:	2	人																																											
■就職率(E/D)	:	100	%																																											
■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	:	100	%																																											
■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	:	20	%																																											
■進学者数	:	7	人																																											
■その他	:																																													
第三者による学校評価		<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: _____ 受審年月: _____ 評価結果を掲載したホームページURL _____</p>																																												
当該学科のホームページURL		https://fashion.oda.ac.jp/academics/design/																																												
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)		<p>(A: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>2,160 単位数時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>60 単位数時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>単位数時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>2,000 単位数時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>60 単位数時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>単位数時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>単位数時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>単位</td></tr> </table>									総授業時数	2,160 単位数時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	60 単位数時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位数時間	うち必修授業時数	2,000 単位数時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	60 単位数時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位数時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位数時間	総授業時数	単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位	うち必修授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位								
総授業時数	2,160 単位数時間																																													
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	60 単位数時間																																													
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位数時間																																													
うち必修授業時数	2,000 単位数時間																																													
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	60 単位数時間																																													
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位数時間																																													
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位数時間																																													
総授業時数	単位																																													
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位																																													
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位																																													
うち必修授業時数	単位																																													
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位																																													
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位																																													
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位																																													
教員の属性(専任教員について記入)		<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>5人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>7人</td> </tr> </table> <table border="1"> <tr> <td>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</td> <td>2人</td> </tr> </table>									① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	5人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	1人	計	7人	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数	2人																						
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	5人																																													
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	1人																																													
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																																													
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人																																													
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	1人																																													
計	7人																																													
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数	2人																																													

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

カリキュラム検討会議で教育理念に基づいた教育課程を立案し、企業の意見や要請等を反映させ、実践的かつ専門的な職業教育に適した教育課程を編成する。2年間を通して服飾造形に必要な基本的技術を理解した上で、産学連携の実践的な教育を行うことを基本方針とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

委員会は校長の下に組織され、教育課程への意見や提案をし審議する教育課程編成における諮問機関として位置付けられている。出された意見等についてはカリキュラム検討会議にて教育課程に反映できるかどうか検討している。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
本多 徹	日本モデリスト協会 事務局長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日	①
太田 みぎわ	WaCCa デザイナー	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日	③
上島 朋子	株式会社near パタンナー	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日	③
鈴木 貴子	織田学園理事長 織田ファッション専門学校校長	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日	—
中 宏樹	織田ファッション専門学校 教員	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日	—
高橋 明美	織田ファッション専門学校 教員	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日	—
山本 優子	織田ファッション専門学校 教務部	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(8月、3月)

(開催日時(実績))

第1回 令和4年8月26日 15:00～16:15

第2回 令和5年3月16日 10:00～11:15

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

委員からの企業訪問についてのご意見を参考に、デニム工場見学を行うなど色々な企業があるということを知る機会を設けるよう努め、就職に対する意識付けの強化を行った。既存のカリキュラムも大切にしつつ、時代に合わせた3DCADの授業を導入するなど、業界が求める人材育成のためのカリキュラム編成を教員間で情報共有しつつ常に検討している。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

感性を豊かにし、クリエイションを表現するための基礎力、売れる商品をデザインするための企画力を養い、アパレル業界のしくみを理解できる人材を育てるため、企業からの直接指導を受け、現場の厳しさや最新技術等を学ぶことを基本方針とする。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

企業に講師派遣を依頼し担当教員と連携しながら実習を行う。講師の指導の下、学生たちがリサーチ、企画、デザイン、パターン製作をし、サンプルを縫製を行い、展示会の日程をお客様へ告知し受注を受ける。一人一人のお客様に対してフィッティングをし、ディテールをカスタマイズして注文された商品を生産し、出来上がった商品を学生からのメッセージを付けてお客様へ郵送するという一連の流れを行う。実習でのお客様対応、技術習得状況等について企業の講師の方から評価を受ける。報告会では、学生がプレゼンを行い素材提供の企業からも評価を受ける。企業等からの評価を踏まえて担当教員が成績評価を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
服飾造形デザインⅡ (服飾造形Ⅱ)	リサーチ、企画、デザイン、パターンメイキング、サンプル検討、展示会、反省会まで企業の一連の流れを学ぶ。受注した商品を各お客様に向けて本生産する。サンプル製作、オーダー品の製作した商品を検品していただく。	株式会社カラビナクリエイション
服飾造形 パターンメイキングⅡ (服飾造形Ⅱ)		
服飾造形ソーイングⅡ (服飾造形Ⅱ)		
企業コラボⅠ		

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

アパレル関連企業及び繊維産業界の実践的なノウハウを学生に教育指導するため及び学生への指導力向上のため、教員研修規程に則り外部の研修を受け、教員の質向上を図ることを基本方針としている。毎年各教員が研修課題を設定し、年度の初めに校長はじめ本校専任教員全員が参加する報告会にて発表の機会を設けている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	新ものづくり研究会	連携企業等:	アズマ株式会社
期間:	令和4年4月20日～	対象:	教員
内容:	連携企業やアパレルメーカー、附属メーカー、服飾学校教員による会員が新しいものへのアイデアを出し合い、縫製について学び、研究する。		
研修名:	2022年度連鎖校協会研修会 就職状況と最近の業界情報	連携企業等:	株式会社MORIパーソナルクリエイツ
期間:	令和4年7月8日	対象:	教員
内容:	企業の採用活動はどう変わったか、2023年度の採用活動と傾向や就職活動に関してどう指導するか、学校の取り組み、選考・雇用の実態などのアパレル業界の現状を学ぶ。		
研修名:	フランスアート刺繍講習	連携企業等:	アトリエ・パイエット
期間:	令和4年10月～全12回	対象:	教員
内容:	基礎の刺し方から自由な図案に対してのビーズの種類や色について学ぶ。		
研修名:	弥生会	連携企業等:	弥生会
期間:	令和4年4月22日～全8回	対象:	教員
内容:	各回、ファッション業界で活躍中の講師を招いてパターンメイキングの技術についてのセミナーを開催。		
研修名:	第22回技術研修会	連携企業等:	日本モデリスト協会
期間:	令和4年11月12日	対象:	教員
内容:	ラグラン袖設計について講師3名を招いて、基本設計、応用設計、理論を学ぶ。		
研修名:	ファッション・ビジネス・フォーラム2023	連携企業等:	経済産業省
期間:	令和5年1月31日	対象:	教員
内容:	繊維産業の新たなビジネスモデル、稼ぐ力の向上、新しい発想・商品開発による新市場の獲得を目指す繊維企業より繊維産業の現状を学ぶ。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	GIGAスクール構想ICT利活用の高度化～私学の強みをいかに発揮するか～	連携企業等:	(公財)東京都私学財団
期間:	令和4年7月19日	対象:	教職員
内容:	ICT利活用の高度化が進む中において、指導する教員にはどのような発想やスキルが求められるのかを学ぶ。		
研修名:	パソコン講座	連携企業等:	(公財)東京都私学財団
期間:	令和4年8月15日	対象:	教職員
内容:	学生が現場で求められる在庫管理などより実践的なスキル指導のため、Word2019/Excel2019の応用について学ぶ。		
研修名:	実践！就活モチベーションの築き方～若者に社会のリアルを見せる大切さ～	連携企業等:	(公財)東京都専修学校各種学校協会
期間:	令和5年2月24日	対象:	教職員
内容:	就活モチベーションの土台とは、若者に社会のリアルを見せる大切さ、だれもが悩む「安定」の掴み方を学ぶ。		
研修名:	学生カウンセリング研修会 教職員の面談力ーZ世代の学生と関係する力 Part2ー	連携企業等:	(公財)東京都専修学校各種学校協会
期間:	令和5年3月24日	対象:	教職員
内容:	指導者の学生との関係力向上を目的とし、学生の傾向を心理学的に理解する。		

(3)研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	新ものづくり研究会	連携企業等:	アズマ株式会社
期間:	令和5年5月～(毎月1回予定)	対象:	教員
内容:	連携企業等との研究をとおして繊維商社による展示会にて新素材を使用しての提案をする。		
研修名:	技術研修会	連携企業等:	日本モデリスト協会
期間:	令和5年	対象:	教員
内容:	アパレル関係者よりセミナーと会報により技術的疑問を解決するための指導を受ける。		
研修名:	弥生会	連携企業等:	弥生会
期間:	令和5年4月～(毎月1回)	対象:	教員
内容:	パターンや縫製の疑問点などをセミナーを通して学ぶ。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	専修学校教員教職課程研修会～教育指導の基礎を学ぶ～	連携企業等:	(一財)職業教育・キャリア教育財団
期間:	令和5年6月～(全25回)	対象:	教員
内容:	専修学校の制度、授業における教育指導技術、学生のこころと向き合う(心理学)、発達障害の学生と接し方(カウンセリング入門)、人権課題等について学ぶ。		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

自己点検・評価について客観性と透明性を高めるとともに、学校関係者から助言を得るため、外部評価を実施する。本校の教育活動、その他の学校運営の課題等を明確化し、改善提案を行い、質の向上を目指す。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	理念・目標・育成人材像は、定められているか
(2)学校運営	教育理念・目標に沿った運営方針が策定されているか
(3)教育活動	教育理念に沿った教育課程の編成・実施方針が策定されているか
(4)学修成果	生活支援の充実化は図れたか
(5)学生支援	退学率の客観的数値(前年度比較)は改善したか
(6)教育環境	施設・設備は、教育の必要性に十分対応できるよう整備されているか
(7)学生の受入れ募集	数値目標(入学生数80名)は達成できたか
(8)財務	経営感覚の教職員間での共有は図れたか
(9)法令等の遵守	コンプライアンス意識を再確認できたか
(10)社会貢献・地域貢献	地域や地方公共団体と連携し、受託等を積極的に実施しているか
(11)国際交流	留学生受入れ、学習・生活指導等について適切な体制が整備されているか

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

委員からいただいた卒業生との関係についてのご意見を参考に、卒業生も使用可能なシステムについての周知や同窓会開催を検討、卒業生向けの学校通信の作成と郵送など卒業生との関係を強化するよう努めている。また、ご評価いただいた社会貢献や地域貢献に関しても、SDGs関連のイベントに参加したり、一般向けの洋服販売を引き続き行うことを検討している。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
内藤 久美	株式会社 辻洋装店	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	企業等委員
松野 仁美	スタイリスト	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	卒業生
山野 晴雄	多摩地区高等学校進路指導協議会	令和5年4月1日 ～令和6年3月31日(1年)	有識者委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://oda.ac.jp/about/reports/>

公表時期: 令和5年6月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

ホームページとパンフレットにより教育活動や取り組み等の学校運営について最新情報の提供を行う。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	校長名、所在地、連絡先、odaの強み、理念・方針、学園沿革
(2)各学科等の教育	学科紹介、主な履修内容、主な時間割例、入学定員、検定受験サポート
(3)教職員	校長メッセージ、教員からのメッセージ、教員一覧
(4)キャリア教育・実践的職業教育	企業コラボレーション、就職支援、就職状況・就職先一覧
(5)様々な教育活動・教育環境	キャンパスレポート、年間スケジュール
(6)学生の生活支援	奨学金・教育ローン、住まいのサポート
(7)学生納付金・修学支援	奨学金・教育ローン、学費
(8)学校の財務	貸借対照表、事業活動収支計算書、資金収支計算書、財産目録、監査報告書
(9)学校評価	自己評価報告書、学校関係者評価報告書
(10)国際連携の状況	外国人留学生募集要項
(11)その他	ファッション学生にインタビュー!、oda fashion Vlog、卒業生VOICE

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://fashion.oda.ac.jp/>

公表時期: 令和5年6月1日

授業科目等の概要

(服飾専門課程ファッションデザイン科) 令和5年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		服飾造形論Ⅰ (服飾造形Ⅰ)	服飾に関する基礎知識の講義。 各製作するアイテムに関する基礎知識の講義。試験で確認をする。	1通	56		△		○	○		○		
2	○		服飾造形デザインⅠ (服飾造形Ⅰ)	各製作するデザイン画の製作とイメージマップの製作。	1通	15		△		○	○		○		
3	○		服飾造形パターンメイキングⅠ (服飾造形Ⅰ)	各製作物に関する作図板書での解説と実物製作のパターンメイキングとトワル組み。	1通	186		△		○	○		○		
4	○		服飾造形ソーイングⅠ (服飾造形Ⅰ)	基本的な縫製技術の習得。原型・スカート・シャツ・ワンピース・子供服・パンツ・ジャケット・修了作品の実物製作とレポート製作。部分縫い製作。	1通	319		△		○	○		○		
5	○		服飾造形ドレーピングⅠ (服飾造形Ⅰ)	ドレーピングの基礎と原型、タイトスカートのドレーピング。	1通	65		△		○	○		○		
6	○		生産管理概論Ⅰ (服飾造形Ⅰ)	市場調査、縫製指示書、工程分析などを指導して実習する。	1通	9		○			○		○		
7	○		服飾手芸Ⅰ (服飾造形Ⅰ)	服飾手芸全般における基礎知識及び技術を基にして応用発展出来るように、エンプロイダリー刺繍のテクニックを学ぶ。	1通	10		△		○	○		○		
8	○		CGⅠ	PC及びグラフィックソフトの基本操作の習得。グラフィックデザインにおける知識を学び、CGソフトの設定や操作に慣れることを目的とする。	1通	40				○	○			○	
9	○		CAD	アパレルのパターンメイキングでは必須の技術である、アパレルCADの操作を習得する。基本的な設定・基本的な操作に慣れるように簡単な課題を積み重ねていく。	1後	10		○		○	○		○		
10	○		基礎デザイン	ファッションデザインに限らず、身の回りのモノも含め『デザイン』を理解する。実習を通し、デザイン技法を理解・習得する。	1前	20		○		○	○		○		
11	○		クリエイションⅠ	デザインとは何か、個々のオリジナル性を追求し、どういう事かを理解し学ぶ。リサーチの重要性、デザインやカラー、バランスを認識・理解する。	1後	14		△		○	○		○		
12	○		スタイル画Ⅰ	スタイル画の基礎、プロポーション、顔、身体などの描き方、平絵、Adobe Frescoの使い方を学ぶ。	1通	36		△		○	○		○		

28	○		3DCAD I	CL0の基本操作を習得をはじめとして、レンダリング出力、モーション設定、生地物性測定など、幅広い技術を身に付ける。	2前	40		○	○	○	○							
29	○		企業コラボ I	リサーチ、企画、デザイン、フィッティングなど企画から生産までの企業の仕事の流れを経験する。	2通	18		○		○					○	○		
30	○		クリエイションⅡ	デザイン発想方法のヴァリエーションを増やす。コンセプトが伝わるデザインの作り方を理解して、伝えられるようになる。様々な発想方法を実践で学ぶ。	2通	32		△		○	○					○		
31	○		スタイル画Ⅱ	基本アイテムを正確に描く。表現力の向上。	2通	50				○	○					○		
32	○		マテリアルⅡ	素材の流行、選択、管理を解説する。繊維の基本の加工を理解する。染色の基礎を理解する。流行による素材の方向性の変化を理解する。	2前	20		○		△	○						○	
33	○		ニットⅡ	編地の種類とニット成型、縫製について理解を深め仕様書作成時にイメージが落とし込めるようにする。	2前	10		○			○						○	
34	○		カラーⅡ	色彩の基礎知識をもとに、個性ある様式美の色彩表現や、想像力を活かしたファッションイメージの色彩計画が行なえることを目標とする。	2前	14		△		○	○						○	
35	○		就職講座Ⅱ	技術職として就職活動するための必要なことを学び、業界新聞を読んでアパレル業界の現状を知る。具体的な履歴書の書き方インターシップの受け方などを指導。	2通	16		○			○						○	○
36	○		校外授業Ⅱ	研修旅行として企業コラボに関係するデニムに関する工場見学を実施。その他ピキーズショー見学や美術館見学を通して知識と感性を養う。	2通	40					○						○	○
37	○		特別講義Ⅱ	多方面の講義を受けることによって見聞を広め、多角的な服づくりや就職活動に対応出来る柔軟さを持たせる。	2通	36		○			○						○	
38		○	ゼミナール CAD I	CADオペレーション能力の向上。各自で課題を設定しCADオペレーション、パターンメイキングを習得する。	2後	40					○	○					○	
39		○	ゼミナール 3DCAD I	CL0 Iのステップアップコース。基本的な内容の復習とオリジナル表現を追求する。	2後	40		△		○	○						○	
40		○	ゼミナール アートクリエイション	過去から現代まで様々な形で表され評価されてきたアート作品を学び、自身で作品を製作し表現の幅を広げる。	2後	40		○		○	○						○	
41		○	ゼミナール パタンナーコース	パタンナーの業務フローに沿って授業を行いパタンナーのリアルな体験をする。	2後	40		△		○	○							○
合計						41	科目	2160 単位 (単位時間)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
すべての課題を提出すること。各教科の出席が2/3以上であること。各卒業要件：教科の成績がC以上であること。所定の期日までに学費等を納めていること。	1 学年の学期区分	2 期
履修方法：必修科目は全学生が履修する。自由選択科目は任意で履修する。	1 学期の授業期間	平均16 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。